

知床岬地区におけるエゾシカ対策の今後の方針(案)

項目	特徴	第4期計画期間												第5期計画期間(仮)																																
		2025(R7)年度						2026(R8)年度						2027(R9)年度						2028(R10)年度～																										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3									
仕切柵改良																																														
測量設計	・現地に上陸できる時期が限定される			●	●	●	●	●	●																																					
施工	・現地に上陸できる時期が限定される											●	●	●	●	●	●																													
捕獲																																														
厳冬期巻狩	・大量捕獲の実績がある。 ・ヘリコプター使用のため高額。平年並みの予算で実施する場合は、半島内他地域の捕獲を休止する等の調整が必要(当然、非積雪期の捕獲も困難)。 ・捕獲個体の搬出困難。処置について整理が必要だがヒグマの懸念はない。																																													
春期巻狩	・ヒグマの懸案があるため、捕獲個体の早期搬出が望ましい。捕獲数の上積みも期待されるが、船の積載量や港への運搬労力との兼ね合いで捕獲数の上限が決まってしまう。 ・捕獲圧をかけることで、グリーンシーズンのシカの出没を減らすことに寄与する可能性もある。																																													
囲いわな	・改良仕切柵の灯台HSコラル部活用。 ・誘引餌、シカ笛の活用等との組合せで捕獲効率の向上が見込まれる。 ・季節問わず活用可能だが、誘引作業の実施も考慮が必要。																																													
簡易囲いわな	・既存仕切柵マンゲート部にグリーンネット等で簡易の囲い罠を即設。捕獲作業員の人力で設置可能で、移設も容易。低密度下での効率的な捕獲。 ・実地試験による実用性の検証が必要。																																													
待ち伏せ式狙撃	・スレ個体を作らず確実な捕獲。 ・囲いわな同様、誘引餌やシカ笛等の活用と組み合わせも可。																																													
エゾシカモニタリング																																														
自動撮影カメラ	・密度推定及び動態把握の手法として現在有用性を検討中。	●	●			●					●	●			●									▲	▲			▲								▲	▲			▲						
航空カウント	・管理計画において生息密度の評価指標となっている。モニタリングを継続してきた実績。 ・費用が高額。燃料代高騰等で今後も上昇の見込み。																																													
GPS首輪	・シカの動態把握については自動撮影カメラの有用性を検証中。 ・首輪装着個体を囿とし、低密度下での効果的な捕獲に寄与する可能性が示唆されているが、効果については知見の集積が必要。																																													
		<ビジョン> ・R6年度の検討を踏まえ、大型仕切り柵の改良に向けて測量設計を実施。R8年度当初より工事着手できるよう発注。 ・個体数の増加を受けて冬季の大規模捕獲(目標:雌雄計50頭)を実施。 ・R6年度より試行している自動撮影カメラによる密度推定を継続。航空カウント調査の結果と合わせて、シカの生息状況の評価の仕方を整理し、今後のモニタリング手法を確立(～R8年度)。						<ビジョン> ・大型仕切り柵の改良を完了。 ・R8年度計画(予算要望)の時点で冬季捕獲実施前であるため、基本的にはR8年度も冬季捕獲を継続する想定で準備。 ・自動撮影カメラ等によるモニタリングを継続(冬季捕獲の効果検証)。第5期エゾシカ管理計画(仮)にて、今後のエゾシカモニタリングの方針を決定。						<ビジョン> ・モニタリング結果(大規模捕獲の成果、植生被害防止との相関)も踏まえつつ、低コストで実施可能な4～5月に捕獲時期を移行。 ・搬出の制約も踏まえ目標頭数を設定。当面は引き続き密度が高めの状態が続くことを想定し、巻狩を実施するが、改良した仕切柵等も活用し、長期的には捕獲総数のみならず捕獲効率の向上を目指す(群れ単位で獲り逃しをなくし、スレ個体をつくらない等)。						<ビジョン> ・モニタリング結果を踏まえて捕獲時期等の固定を目指す。 ・搬出の制約も踏まえ目標頭数を設定。大量捕獲から低密度管理へのシフトを図る。																										

エゾシカ生息密度の評価の考え方と捕獲時期・手法の選択について（試案）

生息密度 (航空カウント 調査によるエゾ シカ発見密度)	評価	管理への反映 (イメージ)	捕獲時期 捕獲手法	備考
目標値以下	○適正な レベル	低密度維持の ための捕獲継 続又は経過観 察	安定した捕獲が可能な時期 (主に春期)・手法を選択 ・囲いわな ・簡易囲いわな ・待ち伏せ式狙撃 等	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲に係るコストは比較的低い 一回当たりの捕獲可能頭数に制限あり (岬からの一艇あたり搬出可能頭数、作 業労力など) 餌やシカ笛による誘引足止めや実施時刻 の工夫により、捕獲効率の向上を図る
目標値以上 ～同2倍未満	△要注意 レベル	さらなる捕獲 努力が必要	上記内容にて、捕獲努力量 の増加や手法の工夫による 改善を基本としつつ、春季 の巻き狩りなど更なる捕獲 圧をかけることも検討	
目標値の2倍 以上	×危険な レベル	捕獲手法の変 更が必要	大量捕獲が可能な時期(主 に冬期)・手法(巻き狩り 等)を選択	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲に係るコストは高い 一回当たりの捕獲可能頭数に制限なし